

平成22年度 武雄市立東川登小学校 学校評価(結果) 110215 学校評議員会・学校評価委員会

1 学校教育目標	やさしく かしく たくましく 一東っ子に自信と誇りを HEART CHALLENGE POWER— 思いやりと感謝の心を持ち、自ら学ぶ意欲のある、やさしく、かしく、たくましい児童の育成
----------	---

2 学校経営ビジョン	<p>＜めざす児童像＞:思いやりと感謝の心を持ち、自ら学ぶたくましい子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしく:思いやりと感謝の心を持ち、だれとでも仲良く、命を大切に子ども HEART ○かしく:基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、自ら学び自ら考える子ども CHALLENGE ○たくましく:よく働き、体を鍛え、何事にもねばり強くやり通す子ども POWER <p>＜めざす教師像＞:教師としての熱意と指導力を持ち、人間性豊かな教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業に徹し、児童の個性を伸ばす教師 ○自己の使命感と目標を持ち、指導力を伸ばす教師 ○児童のよさを見つけ、ほめ、励まし、的確に指導する教師 ○児童と共に学び、共に行動する教師 ○教育公務員としての自覚と責任を持った教師 ○児童や保護者、地域の人から信頼される教師 <p>＜めざす学校像＞:元気いっぱい、夢のある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての児童が元気に学習し、生活できる学校 ○児童と教師で創る明るく夢のある学校 ○地域に根ざし、地域とともに伸びる学校
------------	---

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>◎基礎学力の定着と確かな学力の向上を図る。</p> <p>◎指導方法の工夫改善と個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>◎教職員の資質と指導力の向上を図る。</p> <p>◎健康づくりと体力づくりを推進する。</p> <p>◎生徒指導の充実と特別支援教育及び人権教育の充実を図る。</p> <p>◎地域の教育力の活用と情報の発信により、信頼される開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>◎地域連携による安全安心な学校づくりを推進する。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>①国語科(読解)における「確かな学力を身につけさせる教科学習の在り方(指導方法の開発)二次」に取り組み、読みの観点に基づいた発問の工夫や教材の工夫、TTによるきめ細かな指導による「わかる授業の開発」や、モジュール学習等による基礎基本の徹底、学習・生活習慣の定着を図る取り組みにより、基礎学力の定着と確かな学力の向上、指導力の向上にある程度の成果をあげることができた。／②生徒指導及び教育相談と特別支援教育や人権教育への全校的取り組みにより、不登校ゼロ、楽しく差別のない学級・学校と、生活の決まりを守り友達を大切にすあたたかい人間関係を築くことができた。／③校内研修による職員の危機意識の高揚と保護者・地域との連携により、児童の安全に対する意識と職員の服務規律遵守に対する意識を高め、事故・事件等の被害や服務規律違反を予防することができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>①基礎学力の定着と確かな学力の向上・指導方法の改善と個に応じた指導の充実・指導力の向上／②食育や歯・口の健康づくり、生活習慣の形成等と体力づくりの推進／③危機管理体制の整備と危機意識の向上／④学校運営組織の見直しと活性化による学校教育目標の具現化／⑤地域の教育力の活用と情報の発信</p>

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果(☆)と課題(★)
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標と本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者に周知し、周知度を80%以上にする。	B ・保護者周知度85% ・児童周知度90%	・職員会議、全校朝会、学級の時間等で説明、周知する。 ・学校便り、育友会総会、学級懇談会、地区懇談会等で説明、周知する。	☆一貫した経営方針を視野に入れ、管理職のリーダーシップにより、周知は進んだ。 ★教職員全体を論議に積極的に参画する手立てを工夫したい。重点目標の取り組み状況を細やかに発信していく必要がある。
	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校公開 ・学校評価の公表	・学校便り、学級便り等の発行と、ホームページの更新により学校の情報を発信する。 ・授業参観や学校行事を地域に広く公開し、オープンスクールを年間3回開催する。 ・児童・保護者・職員・学校評議員による学校評価や学校関係者評価に取り組み学校改善を図る。	B ・学校便り、学級便りの発行:月1回～毎日(学級により差がある)。 ・HPの更新:月に一回以上できた。 ・授業参観:年間5回実施。 ・オープンスクール:年3回実施。 ・学校行事公開。 ・学校評議員会:年3回実施。 ・学校評価の公開:年3回。	・学校便り等を毎月発行し配布する。(保護者・地域等) ・授業参観や学校行事を全て公開し、案内を公民館を通して地域にも配布または回覧する。 ・ホームページの更新を定期的に行う。(月1回以上) ・学校評議員会の実施(年間3回以上) ・学校評価の公表と学校関係者評価の実施 ・地域住民との交流の機会を設定する。	☆子どもの様子が伝わる学校・学級便り、HPは保護者に好評である。新聞にも月1回ほどのペースで学校行事が掲載され、地域での話題となっている。HP、学校お知らせメールの活用により、的確な情報発信ができた。学校評議員会の活用により、学校関係者評価や意見を頂き、活性化や改善に役立てることができた。授業参観や学校行事は全て公開した(授業参観出席率86%)。 ★授業参観、講演会、学校行事への地域住民の参加率を上げる工夫が必要である。地域関係機関との早めの日程調整を進めたい。
	○安全安心な学校づくり	・校内外の児童の安全確保 ・危機管理体制の整備 ・地域との連携	・施設点検の確実な実施並びに校内での児童安全に努める。 ・校内研修等で、危機管理マニュアルに基づいたシミュレーションを実施する。 ・避難訓練の実施により避難の仕方を身につけさせるとともに危機意識を高める。 ・地域との連携による安全管理体制を整える。 ・校内事故、交通事故等の予防に努め、発生を0にする。	A ・危機管理マニュアルを活用した研修を月1回実施。 ・月1回の安全点検、迅速な改善。 ・避難訓練年3回実施。 ・児童の安全への知識と行動の高まり90%以上。 ・交通事故、校内事故ゼロ。 ・安全マップ見直し、危険箇所点検年3回。	・危機管理マニュアルを見直し、訓練や研修を実施する。 ・器具等の安全点検を定期的に行い改善を図る。 ・校内の安全パトロールを計画的に実施する。 ・地域の危険箇所を把握し、地域と連携による安全体制を整え、事故や犯罪防止に努める。	☆「具体的方策」については、ほぼ完全に実施することができた。その結果、職員・児童・保護者の危機管理意識が向上し、本年度も児童の事故を0にすることができた。 ☆「学校お知らせメール」の活用により、保護者・地域との連携による安全管理体制をさらに整えることができた。 ★避難訓練における児童の安全意識(避難の仕方)を高め、100%にする。 ★児童の安全面への配慮、校内システムを債券投資、保護者アンケートの結果(98%)を100%にする。 ★保護者引率の集団下校を実施し、登下校の危険箇所などを見てもらう(「安全マップ」を携行)。
	○教職員の資質向上	・指導力の向上 ・服務規律保持の徹底	・全職員が年1回以上の授業を公開し、指導力の向上を図る。 ・教職員の網羅正と服務規律の保持に努め不祥事を0にする。 ・職員研修の内容を充実させ、資質向上を図る。	A ・校内研究、学校訪問時の研究授業、公開授業を全職員が年間1回以上を行った。 ・職員研修は授業研究会を含めた校内研修を24回、それ以外の研修を10回行った。(新教育課程、ICT、小中連携、特別支援教育、教育相談、AED、セクハラ防止、人権同和教育、服務規律等) ・職員の不祥事の発生は無し。	・校内研究の国語科だけでなく、指導方法の改善や特別支援教育等の分野での授業公開を行う。 ・校内研究を含めた職員研修を年20回以上実施する。講師を招聘し、理解向上に努める。 ・不祥事等服務についての事例研修を実施する。 ・評価・育成システムの実施により能力開発に取り組む。	☆校内研究や他の専門研修を加えた職員研修を、目標を上回る回数で実施することができた。それゆえ、研究の意識や指導力、専門性が高まった。来年度、新学習指導要領における本校の教科等年間指導計画の作成も計画的にできた。 ★新学習指導要領に沿った、教科等の指導力の向上、学級経営の充実、学習環境の充実が必要である。
	○家庭・地域との連携	・育友会との連携 ・地域との連携	・特に、運動会、相撲大会は、地域と協力体制を密に実施する。教育フェスタ等学校行事は、地域へも発信する。町文化祭など地域行事にも参加する。 ・各種行事参加率80%、地域住民の参加50名以上を達成する。	B ・合同相撲大会は、保護者参加率90%以上。老人会へも6年生を中心に招待状を出し、参観者が増えた。 ・合同運動会は、保護者参加率約100%。地域住民の参加者も毎年増えている。 ・教育フェスタは、4地区あるうちの2地区の河川整備区役と重なった。特に、教育講演会は、内容が良かったにもかかわらず、保護者・地域住民を合わせても、100名を下回った。町文化祭への参加率も良くない。低調であった。	・各種行事等への案内を早期に配布または回覧する。 ・公民館と協力して行事や情報の発信に取り組む。 ・地域行事、会合に積極的に参加する。 ・オープンスクールの案内を回覧板で全町に知らせる。	☆合同運動会、相撲大会は、保護者だけでなく、多くの町民の方々に見て頂き、活躍を認めてもらえたことで、児童のやる気のみならず、町との合同開催という形式を取ることで、盛り上がりにつながることができた。また、町の体協との協力体制を整えたことで、一体感が生まれ、なおかつ、省力化できた。多忙化を解消した上に、盛り上げることができた。 ★秋は、多くの地域行事が実施され、学校行事と重なってしまい、参加者が少なく、盛り上がり欠ける。町文化祭と教育フェスタを一体化し、同日開催することによって、合同相撲大会や運動会と同じように、成果を引き出すようにできれば理想的である。その原案を公民館や社会教育団体と話し合うことで、早めに作り上げる必要がある。
	○学校運営組織の活性化	・学校運営組織の見直し	・学校教育目標の具現化の視点から校務分掌組織を見直し、学校運営の活性化を図るとともに、目標の実現を目指す。	A ・それぞれの部の活動内容を見直し、組織を3部に再編したことで、部の活動内容が明確になり、運営も行いやすくなった。 ・技部では、「まなぶくん」の作成や算数コーナーの設置などに取り組むことができた。	・学校運営組織を学校教育目標と関連づけた組織に編成する。 ・学校目標の実現をめざして各部の計画を見直す。 ・リーダーを中心にPDCAのマネジメントサイクルに基づき、効果的・効率的に内容の改善を図り目標の実現を目指す。	☆3部の活動内容や細部の組織を見直したことにより、活動内容が明確になり、運営が行いやすくなった。また、それぞれの担当がリーダー性を発揮し、組織力が高まった。 ☆技部を新たに設置したことで、「まなぶくん」の作成や算数コーナーの設置など、前年度に取り組むことができなかったことに取り組むことができた。 ★心部や体部の話し合いの時間はとれているが、技部(学力向上部)の時間がとれていない。位置づけが明確になるように組織を見直し、細部の分担を決める必要がある。
教育活動	●学力の向上	・基礎学力の向上(国語・算数)	・基礎基本の定着を目指した指導方法を開発し、授業内容がわかりやすいと思う児童を90%以上にする。 ・漢字・計算・音読暗唱検定の合格者を90%以上にする。 ・CRT学力検査(国語・算数)の3段階評定で2・3の評定を80%以上にする。	A ・校内研究で国語科のTT・少人数で算数科の指導法改善に取り組んだ。 ・児童アンケート結果「授業がわかりやすい:国91%、算91%」「漢字・計算検定合格者:95%以上」「音読・暗唱検定合格者:84%」「学力検査結果:国2,3の評定80%、算2,3の評定90%」	・主に国語・算数で基礎基本の定着を目指した指導法の改善を行う。 ・朝の時間(15分)を活用し、音読暗唱・漢字・計算の習熟を図る。 ・年間2回漢字・計算・音読暗唱検定を実施する。 ・4月に国語・算数の学力検査を実施し、指導の重点化を図る。	☆校内研究、TT少人数授業による授業の工夫ができた。 ☆朝の時間に計画的、継続的な取組を行ったことで、基礎基本の定着が図られた。 ☆「まなぶくん」を作成したことで、児童の意欲、保護者の関心が高まり、基礎学力が向上した。 ★「まなぶくん」を再検討し、改善すること。 ★漢字、計算タイム実施のための共通理解と教材開発。 ★学習規律を高め、「東っ子の学び」「話し方聞き方あいさつ」を活用すること。
	・読解力の向上 ・国語の授業力の向上	・校内研究で「確かな読みの力」をつける指導方法の開発(3年次)に取り組み、読解力の向上を図る。 ・国・県の学習状況調査、学力検査(CRT)、単元テストの「読む」領域のポイントを1ポイント以上あげる。 ・国語の授業公開と模擬授業をそれぞれ1回以上実施し読解力と指導力の向上を図る。	A ・「三つの確」に基づいたカリキュラムを作成し、仮説に基づいた授業作りを展開することができた。また、模擬授業や検証授業などを通して、発問・指示などに対する教師の意識が向上し、活発な授業研究会を行うことができた。その結果、「確かな読みの力」を児童につけることができた。	・東っ子のまなび(1～6年)学校編・家庭編、家庭学習の手引きを活用する。 ・「正確さ」「明確さ」「的確さ」の三つの確に基づいた年間指導計画を作成する。 ・年間計画に基づいた発問研究と授業実践(分析)に取り組む。 ・全学級年間1回以上の授業公開と模擬授業を実施し実践研究を行う。	☆検証授業の単元では、単元テストにおいて、すべての学級で「読む」領域が全国平均値を大幅に上回ることができた。年間を通して、「読む」領域は、全学年とも全国平均値を上回っており、90点以上であった。／CRTでは2,3段階評定の児童が約80%であり、前年度より5%向上した。全体平均においても全国平均をやや上回っている。本校の研究の成果があらわれている。 佐賀県学習状況調査(5年)では、「読むこと」において、14.1ポイント県平均を上回ることができた。／全国学習状況調査(6年)では、「読むこと」において、国語Aでは3.9ポイント、国語Bでは5.7ポイント県平均を上回ることができた。／以上の結果から、一定の「確かな読みの力」が身に付いたと言える。このことは、年間指導計画や仮説に基づいた研究、授業公開や模擬授業等によって、教師の指導力が向上し、児童の読解力が向上したことを示している。 ★授業実践は計画通りに行うことができた。しかし、発問の効果や児童への対応技術、効果的な板書方法など、指導技術の共有化という面では不十分であった。校内研修を中心に授業技術、技量を向上させる必要がある。／家庭生活や読書活動の啓発、学習規律の徹底など、「確かな読みの力」のさらなる向上のために、家庭や地域への働きかけを行い、協力・連携を求める必要がある。	

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果(☆)と課題(★)
教育活動	●学力の向上	・個に応じた指導の充実と確かな学力の向上	・国語・算数科を中心に、チームティーチング及び少人数指導によるきめ細かな指導を計画的に実施する。 ・知識・技能に加え学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力の確立をめざす。	・TT及び少人数指導時間は、予定より30時間多く実施。 ・TT及び少人数授業の評価「児童＝わかりやすい91%、保護者＝(大体)よい98%」	・国語・算数科で、毎週1・2年で2時間、3・4年で4時間、5・6年で5時間のTT及び少人数指導によるきめ細かな指導に取り組む。 ・習熟度別学習に取り組む、個人差に対応する。	☆TT少人数指導が算数科を中心に全学年で実施できた。児童、保護者の評価が高く、効果も上がった。 ★学力向上のための指導法研究については、今後、全職員で取り組む必要がある。 ★習熟度別学習を取り入れ、個人差に対応していく必要がある。
	●心の教育	・道徳教育の充実	・思いやりの心と規範意識、道徳的実践力を身につけさせる。 ・道徳の授業を公開し、道徳の授業力の向上を図るとともに、学校・家庭・地域と連携した道徳教育に取り組む。	・友だちと仲良く、思いやりの心が育っているかという質問に対して、95%の回答が、「よくあてはまる。」「だいたいあてはまる。」になっているので、道徳の授業や、教育活動全般を通して、児童の道徳性の育成がなされているのではないと思われる。 ・人材の活用、体験活動との関連など、まだまだ十分でない面もある。	・ふれあい道徳を授業参観等で年間1回以上公開する。 ・ふれあい道徳の公開・感想等学校便り等で知らせる。 ・心のノートの活用と人材の活用を図る。 ・体験活動との関連を図った授業を実践する。 ・教育活動全般を視野に入れ、道徳性を育成する。	☆授業参観で、道徳の授業を全クラス公開することができた。その際、授業のねらいや内容を事前に学校便りに紹介し、心の育成の取り組みについて、保護者に知らせることができ、理解が深まった。 ☆道徳の授業や、さまざまな学校での学びを通して、児童に道徳性が育ちつつある。それは、児童の発言や保護者アンケートからもうかがわれる。また、児童アンケートでは、「友だちを大切にしている。」という項目に92%の児童が「よくできている。」と自己評価している。 ★心のノートの活用はできているが、人材の活用は十分にはできていない。 人の心を傷つけるような発言をすることが、時々見られる。思いやりの心を育てるためには、繰り返し、根気強く指導していくことが必要である。
	・人権・同和教育の推進	・自他共に大切に、認め合う差別のない集団づくりに努める。 ・学校が楽しいと答える児童が90%以上をめざす。	・児童アンケート「学校が楽しい」と答えた児童94%。保護者アンケート「学校が楽しい」と子どもが答えている96%で、②の目標は達成できた。 ・友達に関するアンケート「仲の良い友達がいる」95%「自分を大切にしている」95%「友だちを大切にしている」98%で、①の目標は達成できた。 ・講師を呼んでの職員研修ができた。 ・生活アンケート月一回、QUアンケート年2回・人権集会12/9	・生活アンケートを毎月実施。年間2回学級集団アセスメントを実施し、児童の状況把握を行い、いじめ等早期に発見し適切に対応する。 ・人権週間に全校人権集会や人権標語に取り組む。 ・異学年によるグループを編成し、なかよし活動(共遊・掃除・遠足・運動会等)を実施する。	☆毎月生活アンケート、毎週の職員連絡会での情報交換により、問題の早期発見と共通理解ができ、適切な対応ができた。 ☆異学年交流をとおして、自他共に大切に、認め合う意識が高まってきた。 ☆全校朝会の校長の講話や、校長出前授業(道徳)、人権同和標語などの取組を通して、思いやりの心を育てている。 ★単学年で、児童数も多くはないので、人間関係が固定しないように、異学年交流・小小連携等を取り入れていくことが大切である。	
	・生徒指導と教育相談の充実	・あたたかい人間関係と社会性を育てる。 ・生活の決まりを守ることができる児童が90%以上をめざす。 ・自尊心を高め、共生の心を育てる。	・「学校のきまりを守っているか」という質問に対して、保護者アンケート、児童アンケートともに、96%の回答が、「よくあてはまる。」「だいたいあてはまる。」になっている。 ・具体的方策として掲げた内容は、確実に実施することができた。 ・職員連絡会で共通理解を図ると共に、スクールカウンセラーから、専門的なアドバイスを受けながら、問題の解決にあたった。スクールカウンセラーによる教育相談24回実施。 ・スクールカウンセラーによる、TT指導も実施することができた。 ・自尊心が低い児童が見られる。	・支援が必要な児童に関して、個人カルテ(プロフィール)を作成・共有し支援に当たる。 ・支援が必要な児童や問題行動について、毎週職員連絡会で情報交換し共通理解を図ると共に協力して問題を解決する。 ・スクールカウンセラーによるグループエンカウンターを取り入れる。 ・教育相談に関する事例研修会を実施する。 ・生活アンケート実施により児童が抱える問題の早期発見に努める。	☆生活アンケートや児童の様子から、問題の早期発見に努め、スクールカウンセラーや、巡回相談員による専門的助言を受けながら、学校全体で問題の解決に当たり、改善が見られた。また、毎週の職員連絡会で情報交換し、共通理解を図ることができた。その結果、問題行動や不登校もなく、規範意識やあたたかい人間関係を築くことができた。 ★自尊心が低い児童が見られる。児童アンケートでも「友だちを大切にしている。」という項目より、「自分を大切にしている。」という項目の方が、少し、よくない結果になっている。自尊心を高めるような指導を取り入れていくことが必要である。 ★スクールカウンセラーによるグループエンカウンター指導の時間の確保をし、自尊心や、共生の心を育てたい。	
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と健康の自己管理能力の育成	・食に関する指導を充実する。(学級活動・児童会活動・家庭科等) ・健康に関心を持ち、自分の生活習慣を見直しよりよくなる意欲と態度を身につけさせる。	・栄養士や養護教諭と連携した計画的な授業実践がなかなかできなかった。	・食に関する年間計画を作成する。 ・栄養士や養護教諭との連携による指導実践を行う。 ・給食週間に児童会等で食に関する活動に取り組む。 ・学級活動や保健・家庭科等での保健指導を通して、健康に関心を持たせる。	☆「給食・食育コーナー」を充実させたことにより、多くの児童が興味関心を持つことができた。給食委員会の児童が毎日の当番活動を通して、栄養バランスについて理解することができた。給食週間は、毎日の指導計画を立て実践した(給食の歴史・食事のマナー・豆つまみ大会・正しいはしの持ち方・調理室のビデオ放映・給食新聞作り・お礼の手紙など)。養護教諭と連携し、「手洗い」「うがい」についての保健指導を行った結果、児童が自分の健康に関心を持ち実践できるようになった。 ★食に関する年間計画は作成したが、計画通りには実施することができなかった。栄養教諭・養護教諭・家庭と連携した計画的な取り組みが課題である。
	・望ましい生活習慣の形成と体力づくり	・生活習慣に関し、定期的に点検を行い90%達成をめざす。 ・外遊びと体力づくりに努める。 ・保護者と連携し望ましい生活習慣の育成を図る。	・家庭や学校における、基本的な生活・習慣の向上をめざし、本校で作成した「まなぶくん」の活用と定期的な点検をすることで意識や様子を把握できた。 ・毎月1回のノーテレビ・ゲームデーの計画、読書や手伝いなどの過ごし方を学校便りから知らせ、啓発を図った。達成率は毎月90%以上であった。 ・「走る旬間」や「縄跳び大会」の実施など、体力向上を推進していった。	・各学年における「東っ子の学び」を活用し、早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣の定着をめざし、全校で取り組む。 ・外遊びを奨励し、体育の時間や全校運動等を通して体力づくりを行う。 ・学校便り・保健便り・ノーテレビ・ゲームデー便り・給食便り・育友会広報紙等で呼びかけ、意識の向上と定着を図る。ノーテレビ・ゲームデー便りを月1回発行し、読書の推進、生活改善など家庭との連携を図る。	☆今年度、本校で作成した「まなぶくん」は、家庭や学校における生活・学習習慣の向上をめざした「東っ子の学び」、「ノーテレビ・ゲームデー」や「暗唱・音読集」などを一つにまとめたものである。それゆえ、いつも身近にあり、計画や反省、また定期的な点検もでき、よく把握ができた。 ★体力づくりは、持久走や縄跳びなど期間を設定して、取り組みの距離や回数などをカードに記録させることにより、児童の意欲が高まった。 ★「東っ子の学び」については、評価がマンネリ化していきがちで、児童の自己評価の基準をより明確にしていける検討が必要である。	
○教育課程	・教育課程編成の工夫 ・新教育課程の理解	・新教育課程の編成を工夫する。 ・移行期間中の教育課程の完全実施に努める。 ・新教育課程の編成へ向けて、趣旨・内容等の理解を図る。	・毎月授業時数の集計を行い、学期末には調整をして計画時数の達成を図っている。年度末には100%の授業時数確保の予定である。 ・23年度教育課程の研修を7月と12月に実施し、本校での適当な時間割の例、教科等の評価内容など、共通理解を図った。 ・23年度教育課程の内容を「教育だより」で、保護者に知らせた。 ・23年度教科等の年間指導計画は検討済み。	・各学期の中間と終わりに評価と見直しを行う。 ・毎月授業時数の集計を行い、計画の進捗状況を確認し確実に授業時数を確保する。 ・23年度新教育課程における教科等の年間指導計画をすすめる。 ・移行期間中の教育課程の完全実施に努める。	☆本年度は年間行事予定に基づいた授業計画がほぼできたので、授業時数の確保はできていた。23年度の新教育課程に基づく、本校の教科等の年間指導計画の検討は計画どおりであった。 ★新しく変わる教科書に基づいた、評価規準の作成を行っていく必要がある。新教育課程における授業時数の確保を、さらに計画的にしていかなければならない。	
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	・少人数指導による基本的な学習習慣の定着	・基本的な学習習慣の定着度90%以上を目指す。(相手を見て聞く・正しい姿勢・ノートの取り方・家庭学習の習慣・読書の習慣・その他学習のしつけ) ・基本的な生活習慣の定着度90%以上を目指す。(時間を守る・整理整頓・元気のよい挨拶と返事・早寝・早起・朝ご飯・学習の準備)	・学年毎に目標を設定し、改善、充実に向けてきた。児童の様子は、少しずつ向上してきた。 ・「授業中は先生の話を聞いている。」という項目については、90%以上の児童が「だいたいできている。」と答えている。 ・児童のアンケートによると、20%以上の児童が「時間が守って行動している。」 ・「学習用具は忘れずに持っている。」の項目に「あまりできていない。」と答えている。	・少人数指導、きめ細かな指導を行う。 ・学年ごとに目標と評価規準を設定し、改善・充実に向けてきた。 ・毎日の自己点検により意識化を図り意欲を高める。 ・保護者との連携を図る(学級通信・学級懇談会・アンケート等)。	☆少人数指導により、きめ細やかな指導を行うことができた。特に、1年生では、毎時間、TT体制で臨み、一人では行き届かないところを、細やかに補って頂いた。そのおかげで、教室でみんなとともに学習に参加できなかった児童も、みんなともに学習に参加できるようになった。 ★頻りに声をかける必要はあるが、児童は正しい姿勢で学習に臨むよう意識できるようになった。 ★読書については、ほとんどの児童が目標の150冊に到達している。 ★時間を守ったり、学習用具忘れをなくす。 ★整理整頓が苦手な児童が数名いるので、きちんとできるように丁寧に個別に指導する必要がある。
	○2学期制の充実	・2学期制による教育活動の充実	・2学期制についての理解・効果的運用を図る。	・武雄市内の小中学校の2学期制導入の趣旨や経緯、また本校における2学期制の効果について、5つの観点(授業時数の増加、学力の向上、長期休業の活用、充実した学習評価、学校行事の充実)を示した「教育だより」を発行し、保護者に説明した。	・新1年生保護者への2学期制への理解を促進する。 ・2学期制導入の経緯や趣旨について学校便り等で知らせる。	☆保護者の評価アンケートによると、2学期制の支持的評価は「よく当てはまる」は16人、「だいたい当てはまる」は60人で、合わせると76人である。昨年より25人上回り、支持が高まった。 ★新教育課程において、2学期制のよさを生かした教育活動の実践を行うようにする。
	○特別支援教育の推進	・特別支援教育の推進	・特別支援教育への理解と専門性を高める。 ・児童の実態を把握し、障害に応じた指導を工夫する。 ・個別の支援計画を作成、継続・連携して指導に当たる。 ・家庭や専門機関との連携を深める。	・講師招聘による校内研1回実施 ・校内研修2回実施 ・校内委員会2回実施 ・個別の支援計画9名作成 ・特別支援だより月1回程度発行 ・中学校進学に関わる学校訪問、授業参観	・講師招聘による職員研修を実施する。 ・職員の共通理解を図るために校内委員会を年間3回、校内研修会を年間2回実施する。 ・家庭や専門機関と連携し、個別の支援計画を作成・更新する。	☆児童の実態把握のもと、個別の支援計画を作成し、児童の指導・支援に役立てることができた。専門機関やSCと連携し、情報交換をしながら、児童理解に努め、支援に役立てることができた。全職員の共通理解・協力のもと、支援を必要とする児童へ対応できた。 ★家庭・地域への特別支援教育への理解を得ていくことが必要である。
○外国語教育の推進	・新教育課程の実施に向けた外国語活動の推進 ・国際理解教育の推進	・児童が興味を持って「聞きたい」「話したい」と思えるような外国語活動を実施する。 ・外国語活動の指導力を高める。 ・外国語活動に意欲的に参加できる児童を90%以上にする。	・年間授業実施時数は計画通りに行うことができた(右記の時数を下回る学年はなかった)。 ・年間指導計画を作成し、5・6年は英語ノートのカリキュラムに沿って実施することができた。 ・指導技術向上のため電子黒板を活用した研修を実施した。 ・「英語が楽しい」と回答した児童は、99%であった。	・全学年に英語活動の時間を位置づける。(年間1・2年:6時間 3・4年:13時間 5・6年35時間) ・年間計画を作成し、授業実践に取り組む。 ・担任が中心となり、外部講師(ALT等)とのチームティーチングに積極的に取り組む。	☆ゲームや対話活動などのアクティビティを取り入れることによって、ALTの英語表現を何とかして聞き取ろうとする児童の姿が見られた。高学年では、「英語ノート」(ソフト)を活用した授業を行うことができた。また、電子黒板を効果的に用いながら視覚情報(非言語)をもとにしたコミュニケーションスキルを身につけさせることができた。ALTと担任とのデモンストレーションにより、児童に場面状況を把握させた。その結果、英語表現を頼りに理解しようとする児童の姿が見られた。 ★ALTとの打ち合わせを綿密に行う時間を十分にとることができなかった。英語活動は、授業のリズムとテンポが必要である。授業レベルでの指導方法や問いかけ方など指導技術向上に努める必要がある。「英語を話せない、恥ずかしいから言わない」児童を作らないようにする。	

6 総合評価	
全般的に見て、A評価8項目、B評価11項目と、概ね目標達成ができてきているが、個々を見ると、差異もある。学校経営ビジョンにある「児童と共に学び、共に行動する教師」にアプローチするためにも、自己評価・学校関係者評価・分析結果を肝に銘じて一層の自己研修の充実が必要である。 学校行事や諸活動を通し、高学年は低学年の面倒をよくみてあげられるようになってきた。運動会や実りの秋集会、音読集会など、どの行事にも児童一人一人が力を発揮できるような教育的配慮が見られた。学期を追って、校舎内が明るく活気が出てきたように感じる。子どもの成長に寄り添って、児童の抱える問題点を早期解決する努力がなされてきた。今後、礼儀・言葉遣い・自尊心の大切さを再確認させたい。 クラス担任全員、国語科の研究授業を公開し、教職員同士の切磋琢磨もなされた。模擬授業、授業レポートでの学び合いも授業改善に役立った。 学校組織としてのさらなる意図的取組・実践にも努力したい。	

7 来年度の改善策	
教職員がその職責を自覚し、家庭との連携を通して、より地域にも開かれた学校づくりや施設設備などの充実、特色ある教育活動の展開を推進していくよう改善していきたい。 学力向上、学習環境改善の充実、基本的な生活・学習習慣を一層検討する必要がある。電子黒板、電子教科書活用を視野に入れた指導方法の工夫改善・開発にも取り組み、授業力を磨く必要がある。 「東っ子の学び」や家庭学習状況調査の結果などから、児童の生活・学習面の実態を把握し、より効果的な指導の在り方に取り組んでいく必要がある。家庭学習の習慣化については、児童によって取組の差があるので、意識化・自覚化を強化するとともに、課題の与え方や内容について工夫・改善を重ねたい。 「国語科における指導方法の開発」に関して、今年度の取組・分析を踏まえ、テーマの絞り込み、研究内容と方法の明確化・見直しを図っていく。 子どもたちのすばらしい活動や学校の取組・話題を紹介している学校・学級通信、ホームページのみならず、保護者・地域に説明させていただく機会を設けていきたいと考える。	